





後成山

里山

傾踏及句而友集秋之部

新編卷九起篇

夕暮や障子乃とも落の山ハ古谷  
 出代や改く名を淋ハ一壽ハ  
 ころらとらハ一臺も敷ぬ松ハ松月  
 毛の秋を整く事と紅之氣ハ水梅ハ  
 花のりも子迎き虎の舌ハ渡月ハ  
 お居たてまふ生々ハ毛のりハ桃ハ



たるは子尾をりも若のよみ兼ワサ 杏園  
 鈴をちや夏も啼き風カウのうく 霜高  
 揚子江カキ 数年 可もぬ板式 後夢  
 海風や 子供も懐きとあられも 菜花  
 日のうらる 誇ふ 晴子のゆえんりサマ 一秀  
 春はと春とをそれと感る 扇タビ 雅笑  
 鐘風子干兼もし海はとふ人山シロ 蒼梅  
 吹し 雁ハ 付 切 籠カ 小 書カ くる 寄カ 名カ 雅

走くへハ 籠も引 匠多うけしハ 甘水  
 下手あま良 務カ 高くま 踊山シロ 久 老波  
 新筆也 樽の意もも去り人ワサ 米菰  
 名目やりはちちゆし 松京の之 毒水  
 一橋の昔ももうとまき 木の法ミゼ 柏葉  
 ちやひの人やり 霞ハ 了 兼 圭良  
 海風子 揚ア ち 乃 志 ち ち 乃 左流  
 筆のあまきまハ 生エチ あり 霞の月 白平







浪色やまきし指乃る魚イサの糸 逸撃  
志ややくもものそまきし落しぬ 懸石  
指の舞の清くは海之秋の水ウミ 扇風  
風や——吹くし編く 簪く形カタ 此花  
まればも子母のまきしほしぬ良木アヲ 湖柳  
樹まきくは波の松枝 語まきくは 甘水  
まきしまきし落しぬもまきしぬまきし秋  
葦アシのふもまきし風や 帆フネの入イ 古榻

水まきくは波の松枝 語まきくは 甘水  
まきしまきし落しぬもまきしぬまきし秋  
葦アシのふもまきし風や 帆フネの入イ 古榻  
初浪ハツナミやおきくは 薄子ハシラ魚イサの一ヒト 舌ツバ舐シ  
川とまきくは波の松枝 語まきくは 甘水  
まきしまきし落しぬもまきしぬまきし秋  
葦アシのふもまきし風や 帆フネの入イ 古榻  
鳥トリの一ヒト 羽ハ成ナリちくは 鳴ナリ子コ魚イサ 静シズカ泉イハ  
まきし外ソトもまきし落しぬもまきしぬまきし秋  
葦アシのふもまきし風や 帆フネの入イ 古榻 湖ウミ船



西よ未ももやせよさつる月元系ツギ 米糖  
いよ彼の言ふ言のる花磯の編京 如風  
若とれハ思ふぬまの寄れりワカ 枝香  
繪よまも舞やしも朝のひる 李程  
彦ぬくのやうう澄々り 秋の川アヲ 梅溪  
冷うよこゆも木橋の仕舞ツルガ 兎月  
たのふおハひつたの 結可南 馬秋  
舞をまよひや病後の家ふナホト 文朝

舞や 時のる日ハ努力乃先キト 菊春  
名月や 幸もまをを京 夢遊  
引返ふつれそ 細るおふそ 柏葉  
馬も竹も入るる ねり物焼露 甘み  
角力取るぬの赤衣を出さる 着三  
名月ふ何あふの 笠そ川向ひ 忍笑  
通るゆく日ハとる 以 萩の下 杏良  
暮しや 笠ふ所夏の 備くもの 葉花







鐘鳴ハカサリ 吹くや 秋の暮 重龍  
晴きや 一く 招ふ 道 教 苦 聖  
汝 落 凡 細 子 三 也 世 路 抛 百  
路 去 也 介 一 心 之 ゆ 森 之 二 海 自  
葦 井 ハ 葦 ち ぬ 万 年 之 事 一  
鏡 掃 と 三 三 三 落 去 也 本 之 鳥 楓 橋  
川 之 八 降 一 一 秋 之 飛 去 三 一 鳥  
葉 之 存 五 竹 之 七 三 三 三 盆 之 形 聖 聖 石

残る故の一寸うきあやまらぬ 宮山  
吹風をぬ路ハるるあり 留の風 青丸  
字の戸や書解るも 照秋の月 斜岳  
洗くくも 扱くくも ちくくも 榎秋  
控る葉の周りに 落る雪 京 梅枝  
啼く 葉や 聖 十 三 隔く 枕 之 甘 丸  
依りきぬ 村も 干 鶴 三 鳴 子 三 糸 縁 夢  
三 葉 三 言 三 三 三 三 三 三 三 三 三 老 波







山人ありと井の底をききおかしき 鬼笑  
吹くくしは芒の中に入りたる 踏月<sup>フミ</sup>  
風をよも出ると言ふあり秋の夜 百毒  
おやえんハあはしりの夜を 砧を打 百秋  
名月や露をみもこき筆の先 文朝  
橋の浪をいささしくと走るなり 湖静  
ゆく静や最一をいふとる 崔水辰<sup>ツカイ</sup>  
さくこれハうきをぬ静の徳の徳し 岩井

吐のひそく流のなきや及乃月<sup>アツミ</sup> ト仙  
干々しとやおかしの中やみ車 鴉雅  
掃り海と波やあつとるまきと 周<sup>アサキ</sup> 东居  
みよ引とるぬやや 露のそら<sup>ヤマト</sup> 吐月  
さくさくありと一おとらうとるの月 梅溪  
飛先の日のくまよあつとるや 静の徳 保右  
白霧や一もとらうとる 垣隣<sup>エナトコ</sup> 師三  
霧やあつとるをいふるの音<sup>タビ</sup> 美樹











智つもむ世改新くふ包こるを  
 一村  
 駿の馬吹雪あふるを原々の風  
 龍山  
 秋風よ肩おる百の龍うさわ  
 五九  
 秋風よ肩おる百の龍うさわ  
 松月  
 襟のちれに枝たきふに飛ぬ身  
 陸急  
 路傍のさゆりもあへん時中  
 氏村  
 よいのからぬはなれ身を阿る  
 春水  
 首出しく掛るを時や秋の柳  
 角古

大灘改あしあきしき秋の身  
 鬼眼  
 亦る竹や看るもする大文子  
 龍山  
 秋はふもあはゆるやあは末  
 葉船  
 我あしきもあはゆるやあは末  
 葉船  
 あまれを白ひしはるを絶肩  
 和之  
 身より秋の身けるおき身  
 奥眼  
 是見えしをいそふもや相一葉  
 氏村  
 身は清き又もしき秋の身  
 龍山



送りたや葉もまじく水のく  
 せむの汗流もくして跡は松  
 大津浪も金松ほすまよるり  
 汐向すそれハ露や中は物  
 是宿に名をれりまよるり  
 秋事、や相尋もあまて甲物  
 槩井菫も片と文て秋の巻草  
 首つたや村の影おやそ乃摘

七月  
 松月  
 角友  
 暮月  
 和之  
 龍山  
 鬼眼  
 北起

秋州一の巻や志をド一つまはせ  
 え終たまや授てりまの傍りまき  
 一樹し庭もわうたるををささ  
 墓多りあちあち日守うまたり  
 平射もあちこち散一葉を  
 流るまよとりまきりま、路のみ  
 五次子杖策の露拭ひたり  
 松をぬこち段名ぬやまきの秋

ナラ 枚我  
 山才 才阿  
 セウ、 花言  
 アラ 福莫  
 ツルガ 席尾  
 ナラ 洗我  
 アラ 万杆  
 才阿



やまいとて強しおしきる此の言 鳥居

まほり木の多りけり 京 露あり 此花

あまのしほあふき山家の踊 アノミ 梅 梅音

あまのしほあふき山家の踊 ビセ 柏葉

あまのしほあふき山家の踊 アノミ 替月

あまのしほあふき山家の踊 有聲

あまのしほあふき山家の踊 京 誌岳

あまのしほあふき山家の踊 郡山 木秋

編る日を必り 山子 其詩

を然る様をよのけし 万杵

すあろうと伝えん アノミ 梅秀

あまのしほあふき山家の踊 タメ 英樹

あまのしほあふき山家の踊 ワカ 兔月

あまのしほあふき山家の踊 アノミ 素光

あまのしほあふき山家の踊 ハリ 北梅

あまのしほあふき山家の踊 タメ 三録



明のり子世を度くと世明 郡山 凌雲  
 新はてと世や本程の一きり アツ 一九  
 是えの石子つらく野ら草 コツ 花塚  
 梳久り塚くつさる アツ 郡山 鶴全  
 舟ハまぬフハ峠子まらり アツ 久南  
 街ノ及を在りへとりと墓を 一 家  
 暖ぬらう 一 志岳  
 津ちりよとれ 一 根ちや度 一 九起

月々鳴鳥よくりしきらん ナ 洗我  
 いつちちと人の通ぬと秋のう水 ナ 愛夢  
 霞さうし月引菜及らぬ 山 才阿  
 洗ふとと釜つけあう月の川 浴 誌岳  
 降るまうとや草の葉のくもり 露 玉  
 百姓の笑うちのうへや月々 ヤ 月耕  
 所ちくや等くく川の い 柏葉  
 島の砂色 六 飛梅







沖杵くおら〜まらやあ〜はる ナラ 岩燈

く〜いれハおま子別處とすふらり 月染

ハ朔ヤ上下りけ〜 宿 洛 挿人

大海のこ〜るるりこ〜るる 柏葉

お〜まや後さるのしり 波の音 席風

何ら〜やらあ〜し破とやおま マト 井蜂

多ハ〜るるあ〜し 所 カ 兼杆

海のるるを〜し〜るのふらり 九起

月ハ山中〜きハ 跋る 署 カ 桃花

燈籠をちあし接り子の子頼 北溟

豕豆〜も付るつ〜り 風 ガ 山石

初末のよ〜と 宿 カ 四馬

炎片と〜る〜 海 カ 旅 カ 五燕

つ〜き〜少少すり 込 カ 五水

せ〜き 扱 カ 少 カ 宿 カ 海 カ の カ 一 カ 宿 カ 里蝶

初 カ 余 カ る カ 丈 カ の カ 跋 カ り カ し カ 宿 カ せ カ き カ 五燕







意を引せしり海の丸 四  
さくさく木の陰をと 猫の爪 去  
とれきしし福祐うまを 鷹ふふ スビ 喚友  
並葉葉を 勢し麻のうふ 根や子、 松年  
心をもやししたぬめしうや 大文字 兼友  
星ハ只南より多し 一の川 スビ 多楽  
妖乃るるもくくちる 一葉在 里蝶  
さし 鶴も麻末若と 同よりり 九起

何れもハ 六ハ 鳴る 杉 朝山  
うの 勢子 強 過き 子 勢 路 糸 義婦  
骨 多し 子 勢 中 一 ち ち し 柳 電 流  
新 刈 しく 子 柳 や 平 院 綱 の 中 一 子 光 山  
揮 気 二 三 柳 中 三 一 一 子 勢 兼 友 四 馬  
まの 柳 子 三 一 子 勢 兼 友 松 月  
り 新 刈 ぬ の 子 勢 兼 友 一 子 勢 兼 友 遊 風  
お 志 存 け ぬ 子 勢 兼 友 一 子 勢 兼 友 芝 童



志きくくく帷子布き花うき  
 米うくと掃し子船田よあうりり  
 おく花ハたろのりまきし萩のあう  
 やまきあうの成るや海の髪  
 角力とう子あん子小振まめ唇本  
 掃丈ハちく振子ちり萩の庭多一声  
 十のし居る端唄一掃し萩  
 かーく交うと言やきく一ま  
 愚白  
 一鳥  
 青山  
 芝臺  
 忍眼  
 田一声  
 松年  
 乙二

蒼くしうら花うらう掃の交  
 ちんのそれま平一をきききう  
 六く一掃出うしあきと歌子  
 花く掃し肩ホリ一を掃を  
 十も後う眼の掃さう子新掃  
 掃く米うさうめ乃掃居う子  
 初豆の掃るや目うう吹し出る  
 花くくう歌掃し居るあの手  
 朝山  
 春水  
 里蝶  
 里交  
 朝山  
 鬼眼  
 和之  
 四馬



二日跡きめとすくゆる初宿牙  
 悔の夜や 眼のちくく交る人通  
 てる付ハ破くうけし若あま子  
 白草と 若草と 圀のうら散  
 疵すのハ脚 ときる 氷の足  
 岩るらや 足も子とあしおるう家  
 柳もさき 鶯のうけし時寐衣  
 若のうら子のときれしおのあま子  
 一鳥  
 真厚  
 四馬  
 雲月  
 既老  
 一孝  
 桃花  
 九起

如流や 言語まゆ子とらけ  
 きせよと 嬌 けりし破衣雨重水  
 茶まつくと飯うし 信や 路の煙 荅梢  
 くる時子一つし 出さきとらふ系 芝草  
 せのうらことれ 若人のうら月ハ不重  
 首出もと 白髪をさうり 悔のあハ板枝  
 ころるのうらとらし 悔をさし 川り 若婦  
 とき若うしとら 若ふし 牛子う家 小原



依りし油をきりりしりし米  
 云存  
 うちんも縫込しあるを成る子  
 芝臺  
 ぬきやあくしし寝る取の裾  
 忍眼  
 りの面はおもをりま〜臥糸  
 西山  
 妝の衣や春おのつまる新粧  
 暁白  
 持本のの噴り出りけるおきる糸  
 里文  
 二外不と吟りぬし〜の写子子オオ蘭舟  
 枕りちる海もきり〜言中〜月  
 九起

きりし梅をいせなるお芽や満る葉い山梅園  
 一水  
 芳の穂くちりしるのる芽  
 山石  
 雲るハ皆津もせやくり梅を  
 山石  
 下州の染ハる葉の掃〜除る子キ立窟  
 遊風  
 おもてや〜一文ころ尙〜舟  
 遊風  
 みるくくる木の子えりや筆の之カ春山  
 春山  
 くる皆ひあくし梅掃しちれり  
 立鳳  
 筆の葉く〜海おきとちり〜  
 光る子  
 山石



竿ちりしゆくとら世砂系  
 東月  
 葦一節やその中一可一披  
 五雀  
 野一  
 一まふらひしあ鑑  
 五雀  
 杜紳のあゝまらや 門の葦<sup>上</sup>瓢酒  
 山石  
 四の伝ハハるの紅葉やもも射  
 山石  
 おりけし空切しり 本様<sup>子</sup> 山  
 秀山  
 宵の月ハつても時<sup>し</sup> 悔の月  
 山石  
 秋のゆしき水<sup>流</sup>あや 峰乃荒  
 九起

着エ合うあや<sup>し</sup>も<sup>と</sup>皮<sup>張</sup>くま  
 朝山  
 風<sup>の</sup>ゆきま<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ち<sup>と</sup>や<sup>と</sup>角<sup>カ</sup>そ  
 煙草  
 生<sup>地</sup>は<sup>ち</sup>日<sup>ら</sup>え<sup>ま</sup>つ<sup>け</sup>う<sup>お</sup>お<sup>お</sup>  
 阴山  
 二日<sup>経</sup>は<sup>川</sup>す<sup>う</sup>や<sup>ホ</sup>の<sup>子</sup>お  
 和之  
 柳<sup>の</sup>月<sup>も</sup>照<sup>れ</sup>る<sup>燈</sup>け<sup>は</sup>ほ<sup>ら</sup>ん  
 松橋  
 皆<sup>度</sup>エ<sup>を</sup>ら<sup>と</sup>と<sup>う</sup>あ<sup>ら</sup>ひ<sup>さ</sup>ら  
 赤岳  
 笥<sup>中</sup>の<sup>治</sup>え<sup>う</sup>り<sup>あ</sup>る<sup>と</sup>あ<sup>れ</sup>海<sup>系</sup>  
 馬橋  
 お<sup>機</sup>と<sup>り</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>へ<sup>て</sup> 結<sup>う</sup>あ  
 妻水







毛付の上草履 通り抜るるり  
 半乃御止く 尾穂物ひりり  
 ころの梅並くと出ぬ小枝  
 赤重およはまことく 居る端垣が  
 う集るあ猿う 一途いさりりり  
 合しなるきくうさ子娘いさきいさ  
 かうさくめうたさ、居るりり  
 雪女雅  
 如電  
 美婦  
 一丸  
 積菓  
 兔眼

山の色や海れうすお花折  
 橋垣の崩れさうお花折るる  
 飛雪うまふく古河も新河共香  
 春まその花はあふくわ梅れさ  
 やううあさあをさう今の破れ  
 能中をさすわ梅枝打えうら  
 きくくや彌暖平わはは葉  
 つら破のうささまを新河共  
 弓月  
 五水  
 素光  
 柳葉  
 古石  
 友叶  
 喜水  
 古石



修イ山丸玉イ山遠又々々米向搦イ山まを  
 又イ山ほを春すさわらけぬ搦イ山おれ  
 ちとら打すぬハ乳の張きおをイ山お  
 思らぬよ志えく梅の繪イ山お  
 所ハハ以ゆてある新イ山ほを  
 築えせと原の流らるて井イ山お  
 秋イ山ゆやぬも宙ををはむ  
 川の流れきんもとるきりイ山次  
 遊イ山風

おを修くもて飛イ山まき子の白さイ山年  
 河本も幸イ山怪懐お搦イ山まきお我  
 長よおる枕イ山体おれお子イ山お  
 疎さおれ雲イ山々のまをイ山新イ山ほお  
 流イ山竹とまのりる菊イ山のらぬイ山お  
 日イ山おとくおれハ世イ山徳ハ冬イ山降  
 押イ山かきイ山奮イ山通イ山りイ山りイ山花イ山をイ山な  
 白イ山いのらイ山白イ山くイ山やイ山くイ山やイ山おイ山のイ山年  
 如イ山所  
 成イ山史  
 千イ山リケ  
 荻イ山角  
 洞イ山山  
 春イ山爪  
 山イ山石  
 荻イ山角



新得と申中 あまのこころ する つゆ 山  
 着る さわ 虫 と きれ わ 水 の 音 カキ 松雨  
 子 は 子 う ね く 針 ま ね わ ぎ の 洞 吉水  
 茶 を 茶 も 糸 の 早 や 伊 の 山 古丘  
 長 の お よ 着 け ぬ わ ま ぬ 中 松月  
 お の ち き ぬ も 糸 の せ う せ 中 藤山  
 松 風 和 ら 糸 の 風 燈 の 釜 子 笠 赤光  
 伊 の 山 の 眺 を  
 け や ず か ら ら 伊 と 我 は ち ら 糸 の 雲 九起

言 う ち を 一 つ 破 破 一 き 舟 の 巾 カ 梅香  
 法 交 り き ぐ 石 垂 す や 十 日 き ぐ 庫  
 八 月 二 と 一 の 糸 の ち り 糸 の 白 カ 糸  
 白 糸 八 の ち 二 化 粧 や き ぐ 糸 カ 梅香  
 糸 の 糸 の 結 一 巨 路 と き り の たり 洛 糸  
 二 の 糸 の 結 一 志 の 糸 の 結 糸 一 糸 橋  
 唱 を や 少 松 を ぐ 二 一 の 糸 を 糸 糸 柏系  
 糸 の 結 を ぐ 二 一 の 糸 の 結 糸 一 糸 英  
 英 糸



まるしーこのまかりうらやうのク アミ 高倉  
 くらにまゝのまをいこするまの白うま ワカ 常呂  
 舟のとこやうきうけ ぼの陸 タリ 肥玉  
 舞つくくのりきーまや路ーる ヤト 吐佛  
 持ゆる舟よつやまうやまのま 、 留金  
 いつまもりふきーまうらや路ーる 、 唐紙  
 糸ハきもあーりハまのま ヤト 糸線  
 新まや路ーる アミ 福菱

どのきーと白ひ持たりうまのま ワカ 角者  
 せりゆもはまし ぬりまをま ヒラ 赤子  
 智のまのまーるる ヤト 洪水  
 るををまーるもあまま路ー水 タリ 英樹  
 舟さけの舟のまやまをま 、 英抱  
 るのらやまーのまゆく 皆ま タカ 常好  
 ちーいほまのま アミ 竹井  
 五まのま 洛 菱六







面まの月もくもぬ神の徳を奉、苔梅  
りあつらふ鷹ののちをみまふロ弁梅鳥  
押さるる月の用ひ也年の市ハシ古五  
松月の射るひびく傍子可ロ弁楓橋  
以凡も年のま波や山岸の松カラナ古鏡  
茶箱うもちぬ子豆お隣ロ弁茶子 里寛  
茶のぬ乃さつり子ぬぬ末墨式、匠彦  
垣也やたるとまゝるぬり枕ナラ葉香

まゝとまゝとまゝ也二おらまの物者ナツ 古松  
垣也あつらふまのま松重乃茶大坂 七除  
弓の形也射るひびく松アツミ 徳自  
仲人の用ひまのひとを珠南 半山  
新沼乃とふく京 乃松  
日のあつらふま珠南 ありその虎一 素  
毎一葉二を水乃をタニ 葉梅  
松人の越りもあるれまの山 古鏡











中舞一の詠はききある歌子うき 拙摺  
おりのちのちのまきや 信和の鐘 宋城  
舟十の引きうりき 一冬人成 徳夏  
ナシのりーと持まきうりき 一冬人成 島永  
氷りーと持まきうりき 一冬人成 島永  
おのまの石のまきうりき 一冬人成 島永  
葉子力まきうりき 一冬人成 島永  
舟引の汗まきうりき 一冬人成 島永

おのまの石のまきうりき 一冬人成 島永  
葉子力まきうりき 一冬人成 島永  
舟引の汗まきうりき 一冬人成 島永  
おのまの石のまきうりき 一冬人成 島永  
葉子力まきうりき 一冬人成 島永  
舟引の汗まきうりき 一冬人成 島永  
おのまの石のまきうりき 一冬人成 島永  
葉子力まきうりき 一冬人成 島永  
舟引の汗まきうりき 一冬人成 島永















之をきくおもしろいなるは垣の春 雲山  
 麦前也しきしは林をまゝの又 音香  
 ありぬのハおのれおのれおのれ 老波  
 更り也し清くしきく捨の友 務程  
 之神のありし子もあし 柏葉  
 おもしろいなる聲也 九起

口切よ味あふて居る経取の家 久甫  
 大空や遠くの人ハきくを 孫堂  
 掃蕪して居るや少々の話ある 春水  
 何れも清くまけぬ夫 謙 一壽  
 よきあふはゆりハをを帰るり花 榮士  
 中よふや長崎屋よををありり 孫乐  
 枯葉と舟く旅ハやあらしま 健系  
 花見ゆよこ家を下つるあらし 弓月



歌とゆふよのまなこ〜まなこ山  
 隣りくちくちりよまなこや知らる  
 此よのまなこも候ふまなこよか  
 枝よりをほろのくしきをい梅  
 らか〜まなこ一はく〜めりる梅の上  
 めい〜まなことまなこん斗よ〜梅提々  
 くぬぬけりるまなこを冷たれた梅る  
 海ゆき〜まなこゆきまなこまなこをさ

寿水

洞意

健系

瑞系

烟意

柳水

北湾

雲石

夕のよ十りよめりやゆりまな  
 とま〜まなこち〜洞意をほとる  
 此世をまなこ〜まなこよ〜洞意梅  
 山まなこたやねら〜まなこぬ〜洞意  
 夕切やめり〜まなこまなこのまなこまな  
 まなけ〜まなこハ〜まなこまなこまな  
 此まなこハ〜まなこまなこ〜洞意  
 霞〜まなこも〜洞意〜まなこまなこ

瑞系

壽意

洞解

貞朗

瑞系

烟意

健丸

洞系



















答さうと物と蟹のけりさうひか  
 ありさうた海も弱くさん煙管に  
 せらるるや門へおひさし又物さうり  
 追分や明と明ぬのまきさうり  
 地へ海さの風あささうりカ草  
 友とすさる柱も定まぬいさうりか  
 坂りさうりさうり柱舟り山嵐さうりか  
 けさうり煙やぬさうりのまきさうり地のいさうり  
 里文  
 里塚  
 大庄  
 北原  
 九記

物さうりさうりさうりさうりさうりさうり  
 けさうりさうりさうりさうりさうりさうり  
 世さうりさうりさうりさうりさうりさうり  
 海さうりさうりさうりさうりさうりさうり  
 一白と赤もさうりさうりさうりさうり  
 物さうりさうりさうりさうりさうりさうり  
 海さうりさうりさうりさうりさうりさうり  
 眠さうり山眠りさうりさうりさうりさうり  
 物通  
 九記  
 素光  
 雲舟  
 徳尾  
 徳水  
 徳水  
 徳水







去る意は遠くを懐す古き書 一水  
 久しき持たれぬ松葉や雪の上 梅家  
 三年波よ喧嘩うのそ居も高き 弓月  
 天の意入るくく鶴く松葉の 名眼  
 利をくくくくくくくくくく 竹葉の家 竹水  
 快くくくくくくくくくくく 縁解  
 空の物や去る人くくくくくく 弓月  
 くくくくくくくくくくくく 九記

去る意は遠くを懐す古き書 梅家  
 久しき持たれぬ松葉や雪の上 梅家  
 三年波よ喧嘩うのそ居も高き 弓月  
 天の意入るくくくくくく 名眼  
 利をくくくくくくくくくく 竹水  
 快くくくくくくくくくくく 縁解  
 空の物や去る人くくくくくく 弓月  
 くくくくくくくくくくくく 九記  
 去る意は遠くを懐す古き書 梅家  
 久しき持たれぬ松葉や雪の上 梅家  
 三年波よ喧嘩うのそ居も高き 弓月  
 天の意入るくくくくくく 名眼  
 利をくくくくくくくくくく 竹水  
 快くくくくくくくくくくく 縁解  
 空の物や去る人くくくくくく 弓月  
 くくくくくくくくくくくく 九記  
 去る意は遠くを懐す古き書 梅家  
 久しき持たれぬ松葉や雪の上 梅家  
 三年波よ喧嘩うのそ居も高き 弓月  
 天の意入るくくくくくく 名眼  
 利をくくくくくくくくくく 竹水  
 快くくくくくくくくくくく 縁解  
 空の物や去る人くくくくくく 弓月  
 くくくくくくくくくくくく 九記











村のむら 道へおろすあし 一畝  
 採りよる 納豆のぬるま湯 長久南  
 枯れゆきすりや 赤いしあまらり  
 夕さくらの咲くや 生きたる  
 押へる 粉のきつる布とんず  
 揺るきぬし 尻すし たるりりり  
 霞あらしきり 一と 是の心 痛くを  
 朝山 春水 松涛 朝山

芝草 一ふく 入る 初日の志くき  
 ちり 州 一その 中 一く ちり 一りり  
 お豆皮く 息吹く けり ちりきり  
 四月の下 宿や 陰夜 風は 上り  
 玉糸へ 玉糸 玉糸 玉糸 玉糸  
 ぬれぬ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ  
 龍さけの 後や 龍さけの ぬれぬ  
 あく かく かく かく かく  
 朝山 鬼眼 烟萱 春水 春水 里蝶 春水



鬼眼 煙葉 去五 和之 烟葉 松月 鬼眼 九起	ちまつや 扇をひきあはるる二重の 障ハ葉をひきしとまじや 冬之鏡 ちまつや おんちとまじつるちとまじ 年ハハ 疾るハ 扇の ちとまじ ひとまじ 常り年と ちとまじ ちとまじ 常り年と ちとまじ ちとまじ 常り年と ちとまじ ちとまじ 常り年と ちとまじ ちとまじ 常り年と ちとまじ
--	---

變り

世を安頂の川原に深に烟布の  
 名流の都より同一の泉のちとまじ  
 仲代香の香川の流を採りて  
 都と都のけちんあはる  
 空園ゆりはらふと 嶽日枝の香  
 花と一雲をちとまじ 暖候あはる



白くをわつやうそ中ゆつくと呼ぶを  
選考の難題は是より神より一言を  
後ををわつやうそ中ゆつくと呼ぶを  
とるはまふといひ此集の趣は是と  
しよつたり

若水

松華雨後



江戸日本橋通壹丁目

須原屋茂兵衛

大友心齋橋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同 安堂寺町

秋田屋太右衛門

京都寺町通五條上ル

大文字屋與七

同寺町通三條上ル

大文字屋與三兵衛版

三都

發行

書林



